

石垣市平得大俣地域への陸上自衛隊配備計画の賛否を問う

住民投票条例請求の要旨

2018年10月13日 「石垣市住民投票を求める会」結成総会

於茂登岳は、古くから石垣島の聖地とされ、そこを流れ下る水が、人と自然を育んできました。

この、石垣島全体にとって大切な於茂登の麓にある平得大俣地区で、陸上自衛隊の配備計画が進められ、基地（駐屯地）建設に向けて測量が進められています。

配備予定地周辺の水系を視察した水問題、環境問題の専門家が、市の最終決定を行う前に環境アセスメントを実施する必要があると市に提言しているにもかかわらず、防衛省は、沖縄県の改正環境アセス条例の適用を受けずに済むよう石垣市民を無視し、来年3月までに着工する構えです。それに合わせるかのように、市長は、7月に「防衛省と協力体制を構築する」という判断を表明し、市議会に市有地売却を提案しようとしています。

なぜ、そんなに急ぐのでしょうか。なぜ、聖地とされる於茂登岳のふもとを破壊し、有事には標的となりうる自衛隊基地をつくろうとしているのか、私たちは、この計画の中身を十分に理解し、議論し、納得してきたのでしょうか？

美しい自然、文化、観光の島になぜ、どんな事態に備えて、島の真ん中に誘導弾（ミサイル）部隊を置く必要があるのか、装備品やその運用はどのようなものか、有事には島はどんな状況になるのか、大事な於茂登の水や自然環境は十分に保全されるのか、というような、誰もが知りたい問題点について、情報はほとんど共有されておらず、議論や意見表明の機会は全く不十分だったのではないのでしょうか。

このままの状態では基地建設が進められるとしたら、私たちは、この島の暮らしの安全、豊かな自然、産業を、子や孫たちに、責任をもって伝えることはできません。

政府・防衛省も「地元の理解と協力が前提」と説明してきました。配備予定地周辺だけの問題でなく、石垣市全体の問題です。

いま一度よく考え、後世に悔いを残さないためにも、賛成にせよ反対にせよ、市民の意思がはっきりと判るような形にするべきではないのでしょうか。

このような思いから、私たちは、憲法、地方自治法、石垣市自治基本条例が保障する市民の意思表明の手段として、住民投票を実施することを求め、本条例の制定を直接請求します。